

| | |
|------------------------|--|
| Title | 高校就職指導の教育社会学的研究：選抜・配分機能の類型化による「80年代型」仮説の再検討 [学位論文内容の要旨/学位論文審査の要旨/日本語要旨/外国語要旨](学位論文内容の要旨) |
| Author(s) | 大橋（堀）, 有喜衣 |
| Citation | |
| Issue Date | 2015-09-30 |
| URL | http://hdl.handle.net/10083/58188 |
| Rights | |
| Resource Type | Thesis or Dissertation |
| Resource Version | publisher |
| Additional Information | There are other files related to this item in TeaPot. Check the above URL. |

This document is downloaded at: 2017-05-29T00:10:31Z



Ochanomizu University

学位論文内容の要旨

| | | |
|-------|---|--|
| 学位申請者 | 大橋（堀）有喜衣 【論文博士】 【人間発達科学専攻 平成10年度生】 (人間発達科学専攻 平成14年3月単位修得退学) | 要 旨 |
| 論文題目 | 高校就職指導の教育社会学的研究 - 選抜・配分機能の類型化による「80年代型」仮説の再検討 - | <p>高校就職指導の選抜・配分機能については教育社会学において多くの研究が行われてきた。先行研究においては、メリット原則が就職指導にまで貫徹しており「学校に委ねられた職業選抜」が行われていることを強調する説明がこれまで支配的だった。本論文をこれを「80年代型仮説」と呼び、その妥当性を、統計的および事例的研究によって実証的に検証することを目的とする。</p> <p>検証の結果、次の二つの点に関して、80年代型仮説は知見の見直しが必要であることが明らかとなった。①80年代までの日本の高校就職指導は、メリットクラシーが貫徹した「学校に委ねられた職業的選抜」によって特徴付けられるとされてきた点、②90年代以降、高卒労働市場の狭隘化によって、高校就職指導の日本的特質が崩れ、高卒者の職業への移行が急速に不安定なものとなったとされてきた点。①については、80年代までの高校就職指導には多様性が見られ、また学校から職業への移行が従前指摘されてきたほどスムーズなものではなかったことが、本論文では明らかとなった。②については、大都市を対象とした事例研究に依拠した知見に過ぎず、大都市での高卒者の移行の不安定さが強調されてしまったことを明らかにしている。</p> <p>今後、多様な就職指導類型を設定した上で、大都市圏のみならずさまざまな労働市場環境を念頭におき、丹念に高卒就職指導の選抜・配分機能を明らかにしていく必要性を指摘している。</p> |
| 審査委員 | (主査) 教授 耳塚 寛明 | |
| | 教授 平岡 公一 | |
| | 教授 浜野 隆 | |
| | 准教授 富士原 紀絵 | |
| | 教授 藤崎 宏子 | |